

## 2011年3月期 第1四半期決算電話説明会 質疑応答

実施日：2010年8月4日(水)

当社説明者：取締役執行役員 横田明宜、IRグループマネージャー 上田孝一(司会)

以下は、決算電話説明会における主な質疑応答を取りまとめたものです。

Q1) チケット価格改定に関する考え方について、期初と変化があれば教えてほしい。

A1) 価格改定については都度調査をしており、その中で判断していくという考え方に変わりはない。

Q2) テーマパーク事業の売上高が前期と比較して18%も伸びているが、入園者数とゲスト1人当たり売上高の伸び率はそれぞれどのようなイメージか。

A2) 具体的な数値は開示していないが、チケット収入のゲスト1人当たり売上高が前期と比べてほぼ同様だったことから、入園者数の伸び率は、アトラクション・ショー収入の増加率とほぼリンクしているとお考えいただきたい。

Q3) 7月以降の入園者数の状況はどうか。第1四半期の傾向から変化はあるか。

A3) 7月は、猛暑ではあったものの、入園者数は予想通り推移した。8月は、数日しか経っていないものの、若干ではあるが予想を上回って推移している。このように、現状は猛暑の影響は受けていない。

Q4) 第1四半期における海外ゲストの状況を教えてほしい。入園者数全体に占める割合は小さいと思うが、伸び率は大きいのではないか。

A4) 新型インフルエンザの影響で訪日外国人旅行者数自体が減少していた前期と比較すると、国別に若干の差はあるが、訪日外国人旅行者数の増加と比例して伸びている。なお、中国に限らず、香港、台湾、韓国等も伸びている。

Q5) 入園者数について、テーマパーク別や年齢別で伸び率に変化はあるか。

A5) テーマパーク別の数値は開示していないが、両テーマパークともに伸びている。また、年齢別については、従前の傾向と変わりはない。

Q6) ゲスト1人当たり売上高の中で、商品のダッフィーとシェリーメイの効果はそれぞれどれくらいか。

A6) 具体的には開示していないが、ダッフィーとシェリーメイともに効果があった。シェリーメイの販売開始後も、ダッフィーはその影響を受けることなく、引き続き好調に推移している。

- Q7) 第2四半期以降への時期ずれ分が約10億円あるとのことだが、内容はどのようなものか。また、第2四半期以降で想定していなかった費用が発生する見込みはあるか。
- A7) 時期ずれした内容は細かいものの積み上げだが、主なものとしては、宣伝広告費とメンテナンス費である。また、現時点では第2四半期以降に想定していなかった大きな費用が発生する見込みはない。
- Q8) 第1四半期に上振れした新たなキャッシュ・フローは、従来の使途とは異なるものに充当するのか。
- A8) 第1四半期にキャッシュ・フローが計画を上回っていることは事実だが、第2四半期以降の天候リスクなどを踏まえ、通期ではまだ慎重に見ている。なお、キャッシュ・フローの使途については、従来の方針から変更はない。

以上